

職員向け 放課後等デイサービス評価表(多機能)

令和 6年 3月
てとてのキッズ

職員数：9名 回収数：8名 回収率：89%

業所名：てとてのキッズ (多機能型事業所 放課後等デイサービス 調査期間：令和6年2月14日～3月8日 公表日：令和6年4月5日)

◎ この「事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表」は、多機能型事業所 放課後等デイサービスに配置する職員で行った自己評価です。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	夫している点、課題や改善すべき点な	改善目標・工夫している点
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	2	4	2	1	利用児が多い曜日は、狭いように感じる。広さは十分であると思うが、個々に配慮が必要な児童が多く、カムダウン・クールダウンスペースを必要とすることが多い。複数人がそのようなスペースが必要になった場合、現状では対応が難し	・利用児が多い時は、感染拡大予防もあり広いスペースの必要性を感じる時もあります。多機能型事業所のふたつの部屋のパーティションを開け、できるだけ広く使用できるように努めています。
	②	職員の配置数は適切であるか	2	4	2	1		・現時点では、管理者1名、児発管1名、看護師1名、保育士・児童指導員等4名、理学療法士1名、言語聴覚士1名、の体制です。加配が必要な利用児が多い場合は、別単位の事業所のサービス提供後のサポートを要請する場合もあります。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	5	2	1	1	扉が内開きになっているトイレがあり、出入りに配慮が必要ながある。障害者対応のトイレはあるが、多機能利用者の個別支援計画において目標の共有、参画の為にカンファレンスや個別支援計画の確認などを行うようにしている	・全てバリアフリーで整備されています。状況により肢体不自由児対応のトイレがもう一つ必要な場合もありますが、介護力でカバーしています。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル (目標設定と振り返り) に、広く職員が参画しているか	6	1	0	2		・ヒヤリハットをあげる際に皆で共有し改善策を話し合っています。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につ	7	0	0	2		・2月～3月に毎年アンケートが実施されています。その結果を業務改善を目的とした会議に挙げ、改善方策を立案しています。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	6	0	0	3		・法人ホームページで公開されています。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	3	0	2	4		・外部評価の実施にはまだ至っておりません。次年度の課題として挙げていきます。
適切な 支援の 提供	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	8	0	0	1		・今年度は毎月定期的に勉強会を実施し、また、セラピストの勉強会も毎週おこなっています。次年度も計画していきま
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	7	0	0	2	個別支援計画作成ごとにスタッフ間でモニタリング内容や目標について確認をとりながら作成することができています。	
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	6	0	1	2	連絡帳も紙では無くアセスメントツールの方が効率良く情報収集が出来そう。	・利用開始前には主にSM社会生活評価、COPM評価を用いています。また医療機関での情報収集をしております。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	6	1	1	1		・活動担当スタッフと児発管で立案しています。
適切な 支援の 提供	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	6	2	0	1	事前に計画している活動プログラムであっても利用状況に応じて活動内容をスタッフ間で話し合い、活動を行うことができています。	・固定化させないように活動計画には、①運動 ②セルフケア ③学習などバランスよく計画するように努めています。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	7	0	1	1	障害者の個性に応じて、セラピスト専門職の助言にて場面設定の工夫をおこなっています。	・障害者の個性に応じて、セラピスト専門職の助言にて場面設定の工夫をおこなっています。
	⑭	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	8	0	0	1	個別支援計画の達成目標に応じて集団活動や個別活動を組み合わせての提供を行っている。	・発達支援として、個別療育および集団療育を組み合わせています。個別療育はリハビリ専門職の支援となっています。
	⑮	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	7	1	0	1	子どもが早帰りの日はできない。	
関係機関 や保護	⑯	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6	1	1	1	翌日の昼休みに実施している。	・1週間に1回、職員全員で今週の振り返りをおこない翌週の支援にいかすことを目的に多職種でアドバイスしあっています。また、翌日の朝礼時に話し合う時間
	⑰	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	8	0	0	1		・支援については個別支援計画書の目標に呼応した記録の記載に努めています。またその記録内容は、モニタリングおよびカンファレンスで用いるようにしています。
	⑱	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	7	0	0	2		・個別支援計画書の有効期限や課題発生時にモニタリングをおこなっています。その結果を多職種のカンファレンスに繋いでいきます。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	6	0	0	3		・ガイドラインの基本方針は、月単位の計画において組み合わせられています。感染拡大予防の影響を受け、常時組み合わせができていない状況です。
関係機関 や保護	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	7	0	0	2	基本的に二名で参加している。	・担当者会議には、検討項目に応じた職員が参加しています。主に児発管と専門職(看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等)としています。
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に	7	0	0	2		・保護者や、送迎時に学校より下校表をコピーさせて頂いたりしています。送迎担当職員との連絡も適切におこなわれています。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	8	0	0	1		・医療的ケアが必要な利用児のかかりつけ医との連携は、受診時に保護者を通じて連携可能な状況となっています。また必要時には、直接電話をかけ情報共有に

者との連携関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解	6	1	0	2	特に配慮が必要な利用児（てんかん、アレルギー）は、過去通園していた園での対応などを細かく聞き連携しています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	0	0	2	・今のところ卒業の実績はなく、必要性に応じて連携をおこないます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	4	1	3	1	・対応に考慮する事例につきましては、児童発達支援センターに管理者より情報収集が実施されています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	3	1	2	3	事業所内の交流を増やしていきたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	3	1	2	3	・同一敷地内に学童クラブがあり、もちつきなどの法人内活動では感染対策をおこないつつながら、見学をおこないました。また、地域の公園での交流等も行っていきます。積極的に参加する姿勢でおります。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	8	0	0	1	・送迎時での情報共有や、連絡帳の活用にて出来るだけ共有する体制とっています。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者向けの学習会の機会が設けられているか	7	0	0	2	保護者会を通じてそれぞれの職種による保護者向けの学習会を開催する事ができた。
保護者の説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	7	0	0	2	・契約時に説明をおこなっています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	8	0	0	1	・日々の連絡帳でのやり取りを通じて、保護者の希望があった場合は、リハビリ専門職が主に対応しています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	7	0	0	2	保護者会、お楽しみ会を通じて保護者同士の関わり合いの場を提供できている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	8	0	0	1	苦情があった場合は事業所全体で苦情内容を共有し、対応する事ができているように感じる。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	8	0	0	1	事業所だよりを通じて活動の様子を発信する事ができている。
	35	個人情報に十分注意しているか	8	0	0	1	・写真掲載時等は必ず個人情報同意書のチェックをおこなっています。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をして事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	2	2	1	4	・感染拡大に留意しながら可能な範囲での活動計画を実施できました。来年度も引き続き計画していきたいと思えます。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	8	0	0	1	・各事業所にそれぞれ一部ずつ配布し、いつでも見れるように整備しています。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	8	0	0	1	・年に2回は、利用児も参加して定期的に行われています。今年度は、大雨を想定した訓練もおこなっています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	8	0	0	1	・日々児発管より指導が入っており、ヒヤリハットシートや気付きチェックシートの活用が開始されています。 ・また運営規定に虐待防止対策委員会の設置と年に2回以上の研修が実施されて
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	7	0	0	2	・事前としては、止むを得ない状況が発生した場合は、事業所から法人内の医療安全委員会に申し、共有する仕組みになっています。さらに保護者への説明は相談支援事業所等の共有のもと実施されます。身体拘束同意書作成の手続きを踏む場合は、理事長の許可および保護者への同意をおこなった上で実施いたします。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	8	0	0	1	・サービス利用開始時に医師からの情報提供書をいただくようにしています。また管理栄養士の面談、協力医療機関医師への報告をおこなっています。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	8	0	0	1	・ヒヤリハット事例は、事業所内職員での共有・対応策の立案・管理者からの助言をおこなっています。また原因分析が急務な事例は、法人内の事故対策委員会や医療安全委員会に上申され解決に導かれ	

〇この放課後等デイサービス自己評価表は、職員の方に、事業所の自己評価をさせていただくものです。

「はい」、「いいえ」のどちらかに「〇」を記入するとともに、「工夫している点」、「課題や改善すべき点」等について記入してください。